

## シラバス (夜間コース)

指定番号 224

商号又は名称：株式会社アンリ wellead college

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	研修過程の全体構成と各科目の相互の関連性の全体像をイメージできるようにさせる。 介護職が働く現場やしごと内容について理解させる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 多様なサービスの理解	3	3		<講義内容> ○介護保険サービス、介護保険外サービスについて  <演習実施方法> 介護職員の職務内容についてグループワークを行い、理解を深める。
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3		<講義内容> ○各サービスの内容や利用者像について 講師による講義と視聴覚教材を用いることで、介護職の仕事内容の理解を深める。 ○ケアプランからサービスの提供に至るまでの一連の流れとチームアプローチについて
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	DVD教材 「中央法規出版 介護職員初任者研修テキスト1巻付属 職務の理解」
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

### シラバス (夜間コース)

指定番号 224

商号又は名称：株式会社アンリ wellead college

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点を理解させる。 利用者の尊厳という概念に対する気づきを促す。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①人権と尊厳を支える介護	3	3		<講義内容> ○人権と尊厳の保持について 個人としての尊重、アドボカシー・エンパワメントの視点、 尊厳ある暮らし、利用者のプライバシー保護について ○介護分野における I C F について ○Q O L の考え方について ○ノーマライゼーションの考え方について ○虐待防止・身体拘束禁止について ○個人の権利を守る制度の概要について <演習実施内容> 虐待についてケーススタディー
②自立に向けた介護	4	4		<講義内容> ○自立と自律について ○自立・自律支援、残存能力の活用 ○意欲を高める支援 ○個別ケア ○介護予防
③人権啓発に係る基礎知識	2	2		<講義内容> ○人権について ○基本的人権について、憲法などから説明 ○人権の歴史的な流れを事例を用いて考察
(合計時間数)	9	9	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

### シラバス (夜間コース)

指定番号 224

商号又は名称: 株式会社アンリ wellead college

科目番号・科目名	(3) 介護の基本			
指導目標	介護職に求められる専門性に対する理解を促す。 介護におけるリスク、緊急対応の重要性を理解させる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	2		<講義内容> ○訪問介護と施設介護サービスの違いについて ○地域包括ケアの方向性 ○介護の専門性について ○重度化防止、利用者本位の支援姿勢、根拠のある介護 ○チームケアの重要性について
②介護職の職業倫理	2	2		<講義内容> ○職業倫理について ○専門職の倫理の意義 ○介護職としての社会的責任
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	1	1		<講義内容> ○事故予防と安全対策、感染対策
④介護職の安全	1	1		<講義内容> ○介護職員の安全衛生、健康管理について ○腰痛予防について ○介護職員のストレスマネジメントについて ○手洗い・うがいの励行
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

### シラバス (夜間コース)

指定番号 224

商号又は名称: 株式会社アンリ wellead college

科目番号・科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解と医療との連携			
指導目標	介護保険制度、障がい者総合支援制度を担う一員として、関連法規の基礎を理解させる。介護職と医行為、医療との連携の必要性について理解させる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護保険制度	4	4		<講義内容> ○介護保険制度創設の背景及び目的、動向について ○制度のしくみの基礎的理解について ○介護給付と種類 ○要介護認定の手順 ○制度を支える財源、組織、団体の機能と役割について
②医療との連携とリハビリテーション	3	3		<講義内容> ○医行為と介護について ○訪問看護 ○施設における看護と介護の役割や連携について ○リハビリテーションについて
③障がい者自立支援制度およびその他の制度	2	2		<講義内容> ○障がい者福祉制度の理念について 障がいの概念、ICF(国際生活機能分類) ○障がい者総合支援制度の仕組みの基礎的理解について ○個人の権利を守る制度の概要について
(合計時間数)	9	9	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス (夜間コース)

指定番号 224

商号又は名称：株式会社アンリ wellead college

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識させる。 チームケアにおける専門職種でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解させる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護におけるコミュニケーション	3	3		<講義内容> ○相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮について ○受容、傾聴、共感について ○コミュニケーションの技法について ○言語的コミュニケーション ○非言語的コミュニケーション ○信頼関係の形成 ○視力・聴力の障がいに応じたコミュニケーション技術 ○失語症に応じたコミュニケーション技術 ○構音障がいに応じたコミュニケーション技術 ○認知症に応じたコミュニケーション技術 <演習実施方法> 共感について(事例検討) 傾聴について 受容について
②介護におけるチームのコミュニケーション	3	3		<講義内容> ○記録における情報の共有化 ○介護における記録の意義、目的、利用者の観察と記録 ○介護に関連する記録の種類 ○個別援助計画書 ○ヒヤリハット報告書 ○報告、連絡、相談の留意点
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

### シラバス (夜間コース)

指定番号 224

商号又は名称: 株式会社アンリ wellead college

科目番号・科目名	(6) 老化の理解			
指導目標	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づかせる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①老化に伴うこころとからだ の変化と日常	3	3		<講義内容> ○老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴について ○防衛反応の変化、喪失体験 ○老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響について ○身体的機能の変化と日常生活への影響 ○咀嚼機能の低下、筋、骨、関節の変化・体温維持機能の変化 と日常生活への影響
②高齢者と健康	3	3		<講義内容> ○高齢者の疾病と生活上の留意点について (骨折、筋力低下、姿勢の変化、関節痛) ○高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点について ○循環器障がい(脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患) ○循環器障がいの危険因子と対策 ○老年期のうつ病症状 ○誤嚥性肺炎
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス (夜間コース)

指定番号 224

商号又は名称：株式会社アンリ wellead college

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解			
指導目標	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解させる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①認知症を取り巻く環境	1	1		<講義内容> ○認知症ケアの理念について パーソンセンタードケア 認知症ケアの視点
②医学的側面からみた認知症の基礎と健康管理	2	2		<講義内容> ○認知症の定義、認知症の原因疾患とその病態等について ○原因疾患別のケアのポイントについて ○認知症ともの忘れの違い ○健康管理(脱水・便秘・低栄養・運動不足の防止・口腔ケア)
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2	2		<講義内容> ○認知症の人の生活障がい、心理・行動の特徴について ○認知症の中核症状、認知症の行動心理症状(B P S D) ○不適切なケア、生活環境で改善
④家族への支援	1	1		<講義内容> ○認知症の受容過程での援助について ○介護負担の軽減(レスパイトケア)について <演習実施方法> 認知症のケーススタディ
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

### シラバス (夜間コース)

指定番号 224

商号又は名称: 株式会社アンリ wellead college

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解			
指導目標	障がいの概念と ICF、障がい者福祉の基本的考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解させる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①障がいの基礎的理解	1	1		<講義内容> ○障がいの概念と ICF について (ICF の分類と医学的分類、ICF の考え方) ○障がい者福祉の基本理念について ○ノーマライゼーションの概念
②障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1	1		<講義内容> ○身体障がいについて 視覚障がい、聴覚・平衡障がい、音声・言語・咀嚼障がい、 肢体不自由、内部障がい ○知的障がいについて ○精神障がいについて(高次脳機能障がい・発達障がいを含む) 統合失調症、気分(感情障がい)、依存症など精神疾患 高次脳機能障がい、広汎性発達障がい、学習障がい、 注意欠陥多動性障がい等 ○その他の心理の機能障がいについて
③家族の心理、かかわり支援の理解	1	1		<講義内容> ○家族への支援について ○障がいの理解、障害の受容支援、介護負担の軽減
(合計時間数)	3	3	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。



## シラバス (夜間コース)

指定番号 224

商号又は名称：株式会社アンリ wellead college

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら、視聴覚教材や模型を使って理解させ、具体的な身体の各部の名称や機能等が理解できるようにさせる。サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解をさせる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護の基本的な考え方	4	4		<講義内容> ○倫理に基づく介護について (ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除) ○法的根拠に基づく介護について
②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3	3		<講義内容> ○学習と記憶の基礎知識について ○感情と意欲の基礎知識について ○自己概念と生きがいについて ○老化や障がいを受け入れる適応行動とその阻害要因について
③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3	3		<講義内容> ○人体の構造と機能の基礎知識 ○ボディメカニクスの活用 ○中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ○自律神経と内部器官に関する基礎知識 ○こころとからだを一体的に捉える ○利用者の様子の普段との違いに気づく視点
④生活と家事	6	6		<講義内容> ○家事と生活の理解、家事援助に関する基礎知識と生活支援 生活歴、自立支援、予防的な対応、主体性・能動性を引き出す、多様な生活習慣・価値観
⑤快適な居住環境整備と介護	5	5		<講義内容> ○快適な居住環境に関する基礎知識 ○高齢者、障がい者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 ○バリアフリー ○住宅改修 ○福祉用具貸与
⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		<講義内容> ○整容に関する基礎知識 ○整容の支援技術 (演習)衣服の着脱の介助方法(片麻痺、ベッド上)
⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	12	12		<講義内容> ○移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法 ○利用者、介助者にとって負担の少ない支援方法 ○移動と社会参加の留意点と支援 ○利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法・利用者の自然な動きの活用 ○持っている能力の活用・自立支援 ○重心・重力の動きの理解 ○ボディメカニクスの基本原理 (演習)移乗介助の具体的な方法・移動介助(車いす・歩行器・杖)

⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○食事にに関する基礎知識</li> <li>○食事環境の整備、食事に関連した用具</li> <li>○食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ</li> <li>○楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</li> <li>○食事と社会参加の留意点と支援</li> <li>○食事の意義</li> <li>○食事のケアに対する介護者の意識</li> <li>○低栄養の弊害、脱水の弊害</li> <li>○食事と姿勢</li> <li>○咀嚼・嚥下のメカニズム</li> <li>○空腹感・満腹感</li> <li>○食事に關した福祉用具の活用と介助方法</li> <li>○服薬介助</li> <li>○口腔ケアの定義</li> <li>○誤嚥性肺炎の予防</li> </ul> <p>(演習) 片麻痺の方への食事介助、ベッド上での食事介助</p>
⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○入浴、清潔保持に関連した基礎知識</li> <li>○入浴用具と整容用具の活用方法</li> <li>○入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</li> <li>○羞恥心や遠慮への配慮</li> <li>○体調の確認</li> <li>○全身清拭、足浴・手浴、洗髪・陰部清浄（臥床状態での方法）</li> <li>○目・鼻腔・耳・爪の清潔方法</li> </ul> <p>(演習) 部分浴（手浴、足浴）、清拭の介助方法</p>
⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○排泄に関する基礎知識や排泄環境整備と排泄用具の活用方法</li> <li>○爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</li> <li>○排泄とは</li> <li>○身体面（生理面）での意味、心理面での意味・社会的な意味</li> <li>○排泄障害が日常生活に及ぼす影響</li> <li>○便秘の予防</li> <li>○プライド・羞恥心・プライバシーの確保</li> <li>○おむつ使用と弊害・排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担</li> <li>○尊厳や生きる意欲との関連</li> <li>○一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法</li> </ul> <p>(演習) トイレ介助、オムツ交換の介助方法</p>
⑪睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3	3		<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○睡眠に関する基礎知識</li> <li>○様々な睡眠環境と用具の活用方法</li> <li>○快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</li> <li>○安眠のための介護の工夫</li> <li>○環境の整備・安楽な姿勢・褥瘡予防</li> </ul> <p>(演習) ベッドメイキングや体位変換の介助方法</p>
⑫死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	3	3		<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ</li> <li>○生から死への過程</li> <li>○「死」に向き合うところの理解</li> <li>○苦痛の少ない死への支援</li> <li>○終末期ケアとは</li> <li>○高齢者の死に至る過程</li> <li>○臨終が近づいたときの兆候と介護</li> <li>○介護従事者の基本的態度</li> <li>○多職種間の情報共有の必要性</li> </ul> <p>(演習) 尊厳ある「死」についてグループワークにて考え、介護職の役割の理解を深める。</p>

⑬介護過程の基礎的理解	6	6		<講義内容> ○介護過程の目的・意義・展開 ○介護過程とチームアプローチ (演習) 事例を用いたアセスメント、個別援助計画の作成
⑭総合生活支援技術演習	6	6		<講義内容> 事例の提示→こころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題 ○演習で取り扱った介護技術の習得の確認 (演習) グループワークにて事例に基づき討議をし、実技演習にて理解を深める。
(合計時間数)	75	75	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス (夜間コース)

指定番号 224

商号又は名称：株式会社アンリ wellead college

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標	研修全体を振り返り、学んだことを今後どう活かすか理解させる。専門職として職務を通じて継続的に学ぶことや、知識や技法を習得することで専門性が向上していくことを理解させる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①振り返り	3	3		<講義内容> ○研修を通して学んだこと ○今後継続して学ぶべきこと ○根拠に基づく介護についての要点 ○研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを演習等で受講者自身に表出・言語化させた上で、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について講義等により再確認を促す。
②就業への備えと研修修了後における事例	1	1		<講義内容> ○継続的に学ぶべきこと ○研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージ出来るような事業所等における事例 (OJT、Off-JT) を紹介 ○キャリアアップに関する国の考え方
(合計時間数)	4	4	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。